

coffee time

### 戊辰戦争

1868年(慶応4)戊辰の年に始まり、維新政府軍と旧幕府側との間に一六か月余にわたって戦われた内戦。正月の鳥羽・伏見の戦いに勝利した政府軍は、4月江戸城を接收し、上野にこもる彰義隊はじめ関東各地で旧幕府主戦派を討滅、奥羽越前藩同盟を結んで対抗する諸藩をも会津戦争を頂点に10月に帰順させた。翌年5月、最後の拠点箱館五稜郭を陥落させ、内戦は終結、明治国家確立への途が開かれた。

江戸城は開城したものの、徹底抗戦派の幕臣および旧幕府軍は徳川家の聖地である日光廟に立て籠もって兵を募り、そこで新政府軍と大決戦を行うつもりで大量に江戸を脱走、下野国日光山を目指していた。

一方、時を同じくして当時下野国で起きていた世直し一揆を鎮圧するために東山道総督府が下野国宇都宮に派遣していた下野鎮撫香川敬三(総督府大軍艦)は、手勢を引き連れ日光道中を北上中、下野国粕壁で流山に新撰組が潜んでいる噂を聞き有馬藤太を派遣して近藤勇を捕縛した。

近藤は板橋に送られたが、香川はそのまま行軍を続け宇都宮に駐屯した。

世直しが沈静した直後の4月12日、大島圭介は伝習隊、幕府歩兵第七連隊、回天隊、新撰組など総勢2,000人の軍隊を引き連れて下総国市川を日光に向けて出発、途中松戸小金井から二手に分かれ、香川の駐屯する宇都宮城の狭み撃ちに出立した。

これを聞いた宇都宮の香川敬三は、一部部隊を引き連れてこれを小山で迎え撃った。

兵数と装備で勝る旧幕府軍が宇都宮城を占領するも、宇都宮から一時退去し東山道総督府軍の援軍と合流、大山巖や伊地知正治が統率する新政府軍に奪い返され、もともと目指していた聖地日光での決戦に備えるべく退去した。

兵数と装備で勝る旧幕府軍が宇都宮城を占領するも、宇都宮から一時退去し東山道総督府軍の援軍と合流、大山巖や伊地知正治が統率する新政府軍に奪い返され、もともと目指していた聖地日光での決戦に備えるべく退去した。

兵数と装備で勝る旧幕府軍が宇都宮城を占領するも、宇都宮から一時退去し東山道総督府軍の援軍と合流、大山巖や伊地知正治が統率する新政府軍に奪い返され、もともと目指していた聖地日光での決戦に備えるべく退去した。

coffee time

### 「万葉集」にみる下野出身防人の歌

防人は、大陸にもっとも近接した北九州の防衛にあたるため派遣された兵士である。防人はその武勇が知られた東国出身の兵士が中心を占めた。防人は、律令では少丁(しょうてい) 21歳から60歳までの男子)の3分の1で編成された軍団の中から徴発され、3年間の任務についた。

防人は、徴発されると陸路で難波津(現在の大阪湾岸)に向かい、ここから海路で筑前太宰府に赴いたのち各々回りの防衛地に配置された。防人になると、所定の武器などをととのえるのははじめ難波津までの食料は自弁であった。

『万葉集』巻20には、下野出身の防人の歌が、11首見える。

防人は、徴発されると陸路で難波津(現在の大阪湾岸)に向かい、ここから海路で筑前太宰府に赴いたのち各々回りの防衛地に配置された。防人になると、所定の武器などをととのえるのははじめ難波津までの食料は自弁であった。

『万葉集』巻20には、下野出身の防人の歌が、11首見える。

coffee time

### 北関東自動車道

群馬県高崎市の高崎JCTから栃木県の東北自動車道を経由し、茨城県ひたちなか市のひたちなかIC(東水戸道路)へ至る高速道路(高規格幹線道路)である。

略称は北関東道、北関東自動車道建設促進期成同盟会が公募で決めた愛称は北関(きたかん)。群馬県前橋市、栃木県宇都宮市、茨城県水戸市と、利根川以北に当たる北関東3県の県庁所在地を通過している。

### 下野の両雄対決

茂原(古くは毛原、裳原とも書いた)は中世、たびたび合戦場となった。

南北朝のころ、天授6年(1380)、茂原の地で下野の両雄といわれる宇都宮基綱と小山義政が壮絶な戦いを行った。「小山・宇都宮合戦」「裳原合戦」「小山義政の乱」ともいわれる。結局、義政の謀略によって基綱一族300余人はことごとく討ち死にした。この合戦は本来、宇都宮氏と小山氏の私闘だったが、のちに鎌倉幕府に対する小山市の反乱にも発展したといわれる。

### 街道名物

かんぴょうの正体は、のり巻きの具として馴染みのかんぴょうは、夏の夕暮れに白い花を咲かせる夕顔の実です。

ウリ科の植物で古くから栽培されているが、この夕顔の果肉を細長くむいて乾燥させるとかんぴょうになる。

植物繊維や鉄分、リン、カルシウムなどが豊富で、健康食品としても優れている。



**52 石橋宿 ~ 雀宮宿**  
 栃木県上三川 栃木県宇都宮市  
**鞘堂 ~ 茂原**  
 ( 歩行距離 1857m 23分 )  
 歩く地図でたどる日光街道  
<http://nikko-kaido.jp/>  
[JZE00512@nifty.ne.jp](mailto:JZE00512@nifty.ne.jp)



追分から結城道へ

追分から結城道へ  
 右に入る道が、かつての結城道の跡で、現在は多少道が失われてるが、ここから多巧天満宮、下野薬師跡、竜興寺を経て結城、境、関宿を経て関宿道で春日部(22ページ)に至る、日光街道以前の道。



結城道追分

結城道追分(わかされ)  
 結城道(日光東街道)との分岐点。北関東道の手前にパチンコ店の大きな駐車場がある。駐車場の先、右に入る道があり、「追分」と書いて「わかさり」と地元で呼んでいる。



北関東自動車道の高架



星宮神社

星宮神社  
 日光道中略記に「鞘堂新田の鎮守なり」とある。創建年代は定かではありませんが、鞘堂新田の鎮守として、古くから信仰を集めていた神社です。石の祠が本殿の裏に点在し、参道右手にも並んでいます。



鞘堂地蔵

鞘堂地蔵  
 「是は小山・宇都宮合戦の刻、戦死のもの、鞘を埋みて上に堂を立、地蔵を安置せし故、鞘堂地蔵と云。安産の願をかくれば靈験ありと云」(日光駅程見聞雑記)

鞘堂の名は、天授6年(1380)に小山義政が、宇都宮氏との領地争いが発端で、宇都宮基綱を殺害したことにより、鎌倉公方の足利氏満が義政追討例を出した。この「小山義政の乱」と呼ばれる戦いは3度におよび、結局、小山義政は追討され小山市嫡流は滅亡する。「小山義政の乱」小山・宇都宮合戦の際、戦死した兵の鞘を集めて埋め、そこにお堂を建て地蔵を安置した。この地蔵の名前がそのまま地名になった。